

市報

とあ



特集

祝・金婚式! 50年目の絆

12  
vol.150

## 祝・金婚式！ 50年目の絆…P4～

### 目 次

|                  |    |
|------------------|----|
| 子どもフェスタ……………     | 11 |
| 仕事百景……………        | 14 |
| 弥五郎どん祭り……………     | 16 |
| まちの話題……………       | 18 |
| 教育委員会から……………     | 22 |
| 健康について……………      | 24 |
| 子育てについて……………     | 26 |
| 補助金・年金 etc.…………… | 28 |
| 生活について……………      | 30 |
| 情報掲示板……………       | 32 |
| 市民の広場・今月のプレゼント…  | 35 |
| 戸籍の窓……………        | 38 |
| くらしの情報……………      | 39 |



### 今月の表紙

弥五郎どん祭りの前日に、岩川小学校で花育の授業があり撮影しました。女の子たちが作っているのはビクトリーブーケ。11月3日に行われた「弥五郎どん祭り武道大会」の勝者にこのブーケが贈られました。花育活動は、スプレー菊農家の小瀨健一さんが中心となり推進しています。

※関連記事 16 ページ・18 ページ

たか森カフェよりお届け!

## 曾於市の 旬を食べる。

### 第8食目 かぶのポタージュ スープ

#### 材料（2～3人分） つくり方

かぶ……………3個  
玉ねぎ……………半分  
バター……………10g  
※コンソメ……………1個  
※水……………100ml  
※ローリエ……………1枚  
牛乳……………150ml  
塩こしょう……………適量

- ① 玉ねぎは千切りに、かぶは6等分に切る。
- ② 鍋にバター、玉ねぎ、かぶを入れて、5分炒める。
- ③ ②に※を追加して蓋をし、15分弱火で火を通す。
- ④ ローリエを取り出して、フードプロセッサーでなめらかになるように潰す。
- ⑤ 弱火のまま牛乳を加え、塩こしょうで味を整えて完成。



気持ちのいい陽だまりを思わせるような、ゆったり空間でご提供するのは、体に優しい季節の素材を大切にした旬のお野菜メニュー。皆さんの毎日にちょっとしたシアワセと、ホッと癒されるようなランチメニューやデザートをご用意してお待ちしています。詳しくはホームページをご覧ください。なお、ご予約のお客様が優先となります。

**たか森カフェ**

毎週金・土曜日 11時～16時営業  
財部町北俣 5410-1 ☎ 0986-28-6120



## 第20回

地域おこし協力隊が行く！

# 実は隣のスゴイ人

曾於市内のスゴイ人にスゴイ人を紹介してもらうこのコーナー。

前回のスゴイ人、投谷八幡宮宮司兼 Soo 音協の柏木さんにご紹介いただいたこの方は「投谷八幡宮保存会の会長で、奉仕活動はもちろん、人として本当に素晴らしい方」とのこと。インタビュアーは、平澤津あやでお届けします。

【今回のスゴイ人】

菱ヶ迫建設  
代表取締役

菱ヶ迫 一己さん



**今**回は菱ヶ迫一己さんにお話を伺ってきました。菱ヶ迫さんは、現在82歳。地元である大隅町大谷で働き、40年前に菱ヶ迫建設を設立。現在も代表取締役をしています。市内の整備はもちろん、投谷八幡宮の階段を始め、社殿・社務所・道路の工事なども行ってきました。

その縁もあって、9年前に投谷八幡宮の保存会が設立される際、副会長になりました。しかし「当時は神社のことは何も分からなかったんだよね」と菱ヶ迫さん。まずは自分の出来ることを、と仕事で培った知識や技術で奉仕活動をしていました。現在は周囲の推薦もあって、会長を務めています。「一人で出来ない事はみんなで協力すれば出来る。でも一番は、奥さんの理解と協力があってこそ」と優しい笑顔で話してくれました。

「戦争も乗り越えてきた1300年の歴史を守らな」といけない」と保存会は日々活動をしています。その活動の一つが、年に2回、境内で行うグランドゴルフ大会。なかなかない経験ですよね。なんと30チーム近く集まるんだそうです！そんな日々の活動の成果か、年々初詣の参拝者は増加しているとのこと。初詣の時期は豚汁の振る舞いもあるとか！

私が就任して間もない頃、曾於市内を案内をしてもらった時に投谷八幡宮に連れて行ってもらったことを思い出しました。あの時歩いた道を整備した方と、こうやって出会えることができたこと、お礼を兼ねてもう一度お参りに行ってこようと思いま



## 協力隊の活動報告

先月に引き続き、「協力隊と！美味しさ追求体験」のひとつだったお米づくりも収穫の時期を迎えました。今回は代表して、三浦と平澤津で行ってきました。各自コンバインと手刈りを体験。収穫の様子とへっぴり腰の三浦の様子は協力隊フェイスブックでご覧下さい！

そして、就任2年目となった私達の活動報告会が決定しました…！

「協力隊ってどんな人？」「何の活動をしているの？」などなど、堅苦しくならないよう、笑いを織り交ぜながら、ご報告できたらと思っています。皆さん、ぜひ足を運んでください。



2017年10月27日（金）

平澤津あや

▼ 曾於市地域おこし協力隊 第一回活動報告会 ▼

日時：12月6日（水）18時30分～ 場所：曾於市 末吉総合センター大研修室



特集

祝・金婚式!

# 50年目の絆







# 50年目の絆

東さんの場合

東 高志さん (73)・逸子さん (74)

——今年が金婚式ということは、昭和42年にご結婚されたのでしょうか？

**逸子さん** いや、私たちは昭和41年の10月に式はあげましたね。届け出をしたのが昭和42年。

**高志さん** 明くる年に届けを出していたんだよ。

**逸子さん** 本当は6月くらいにあげる予定だったんだけど、この人が式の1週間前に事故にあっちゃって。

——それは大変でしたね。

**高志さん** バイクとトラックの大きな事故で、3カ月入院した。

**逸子さん** 結婚前だったけど、看病に毎日行きましたよ。食事も病院で自炊してね。もう大変だった(笑)。

——その後無事退院して、10月に結婚式をあげた、と。そもその出会いは何だったんですか？

**高志さん** そりゃあ、その頃はお見合いですよ。仲人さんに「いい子がいるよ」って言われて。

**逸子さん** 私がある結婚式に手伝いできているのを見かけたらしくくてね。その後うちに来て会うことになって、そこからはほとんど。

——結婚式はどんなだったんですか？

**逸子さん** その頃は、外でやるか家でやるか移り変わりの時期だったけど、私たちは家でやりましたね。実家がある松山からハイヤーでこまて来てね。

——ハイヤーで！すごいですね。

**高志さん** そのころは自家用車よりハイヤーの方がメジャーだったからね。昔ながらの結婚式で、花嫁の歩く道に壁をつくったりね。

**逸子さん** 「可愛い娘を嫁にやりたくない」って、花嫁側の親族が木や竹で作るの。それを仲人さんが壊しながら進んで、嫁入りするんですよ。

——それから50年。夫婦円満の秘訣はありますか？

**逸子さん** まだ若いころは農業もあって暇がなかったけど、今はよく出かけてるの。お弁当買ってお花見したり、孫の駅伝の応援へ行ったり。買い物も二人で行くしね。

**高志さん** まあ、生きてれば辛いときもあるから、仲良し100%ってわけにはいかない。だから、一番は「我慢」が大切だね。でも結婚相手は気を使わない人がいいと思うよ。





# 50年目の絆

和田さんの場合

和田 傳一さん (76)・寛子さん (73)

——和田さんご夫婦は昭和42年にご結婚されたということですが、どんな出会いだったんですか？

**寛子さん** お見合いでしたね。わたしは就職で東京に行っていたんだけど、帰ってきてすぐその話がありました。

**傳一さん** わたしも大工として弟子入りを関西でしていたんだけど、戻って来て。翌年の2月にもう結婚しましたね。

——早いですね！第一印象は覚えてますか？

**傳一さん** 晩だったから顔もあんまり見えなかったし、覚えてないよ！（笑）

——お二人ともご出身は末吉町？

**寛子さん** そうです、二人とも。結婚式も旧末吉駅の前にあった「喜楽旅館」で挙げました。

**傳一さん** その頃は家でする人も多かったから珍しかったんじゃないかな。

——新婚旅行はどちらに行かれたんですか？

**傳一さん** 指宿だね。

**寛子さん** 指宿に行く人が多かったんです。わたしたちが行ったとき

も、バスに乗ったら知り合いの人が2組、新婚旅行に来てて、大笑いしちゃった（笑）。

**傳一さん** その時に記念樹として開聞岳にフェニックスを植えたんだ。そのあとも何度か見に行ったんだけど、みんな植えてくもんだから、自分のはもうどれかわかんない（笑）。

——結婚生活で印象に残っていることはありますか？

**寛子さん** 結婚してすぐ独立したから、子どものごはんだけじゃなくて、お弟子さんの分も昼ご飯つくったりして。

**傳一さん** 遠くだと薩摩川内まで家をつくりに行ったりもした。台風なんかがくると気が気じゃなくてね。

**寛子さん** わたしも針に刺されるような気持ちでしたよ。夜中に2人で屋根にシートを張りにいったこともあった。3年前に仕事を辞めるまでずっとそんな感じでした。

——どんな50年でしたか？

**寛子さん** 辛いこともあったけど、もちろん楽しいこともたくさん。あつという間だったわね。

**傳一さん** まあ、これからも健康に気をつけてやっていきたいね。



# 50年目の絆

榮徳さんの場合

榮徳 照子さん (77)・善司さん

——榮徳さんはひとり金婚者の集いに今年参加されたんですね。

**照子さん** そうですね。平成12年に夫が亡くなったので。でも、実はわたしたちが結婚したのは昭和38年なので金婚式はもっと前なんです。だけど、「せっかくだから、出た方がいいよ!」と言われて、聞いてみたら市役所もいいと言ってくださって。

——金婚式に出たことは、善司さんに報告しましたか?

**照子さん** そうですね。いただいた賞状は仏壇に飾りましたよ。金婚式に行ってきたと報告も。

——結婚式を挙げられたのはもう54年前になりますが、当時のことは覚えていらっしゃいますか?

**照子さん** もうどこで結婚式をあげたかは今、思い出せないですね(笑)。家じゃなくて都城でやったことは覚えてるんだけど。

——どんな出会いだったんですか?

**照子さん** お見合いですよ。もう仲人さんの口のうまさに騙されていったような(笑)。でも、当時は会ってから2、3カ月で結婚が普通だったんですよ。

——結婚してからお互いを知るというのが普通だったんですね。

**照子さん** そうですね。わたしが22歳の時、夫は30歳の時に結婚して、もちろんいいことばかりなかったけど。休みの日は一緒に登山に行ったりして。

——二人とも登山が大好きだったんですか?

**照子さん** 子どもたちも好きでね。家族4人で登りに行ったりしました。九州はほとんど登ったんじゃないかな。屋久島の宮之浦岳も登ったし、富士山も2回登って。夫は定年より2年早く仕事を辞めて。それから病気になるまでは一緒にいろんなところに行きました。

——趣味が合つて夫婦だったんですね。

**照子さん** アウトドア派でね。わたしは今でも、外に出てる方が好き。娘のいる福岡に行つてるときも近くの山に登って往復1時間くらい歩いたり。元気が一番だから、足腰を鍛えるのはもちろん、ストレスをため込んじゃダメ。身体を動かすと気持ちもすっきりするでしょ。だから、晴れてたら畑に苗を植えて、草むしりをしたりしてね。すごく、大事よ。



# 50年目の絆

前山さんの場合

前山 義一さん（88）・恵子さん（73）

——お二人とも財部町のご出身でしょうか？

**義一さん** そう。実家は城山の方でしたね。財部町の中心地で自分でクリーニング屋を始めていました。

**恵子さん** わたしも地元は財部で。当時はもう学校の先生をしていて、財部南小で働いていました。

——年齢をお聞きしたら、年の差15才なんです。お見合いですか？

**恵子さん** いえ、違うんです。前に財部駅の近くにあった「いずみや」さんで声をかけられたんだけど、よかにせだったからポーツとなっちゃってね。出会って3カ月で結婚したの。年齢は結婚するときに聞いて（笑）。

**義一さん** 聞いてこないから（笑）。わたしは年が離れてたから、すごく反対されるだろうなと最初は結婚なんて考えてなかったんだけどね。

**恵子さん** 親に反対されたんだけど押し切って（笑）。でも、背が高くてね。斜め後ろからみる後頭部がすごくかっこよくて、いつも少し後ろを歩いていたの。

——なんて素敵なお話……！結婚されたあと、恵子さんは教師、義一さんは自営業で共働きだったんですね。

**義一さん** そう、もうクリーニング屋は50年以上したかな。末吉や岩川まで行くこともあった。当時は珍しい全自動の機械をいれててね。多い日はお店に80人くらいお客さんが来たこともあったんだよ。

**恵子さん** この人は本当に仕事一筋で。わたしも教師を55才まで続けたから、家庭に仕事に大変だったけど、実家の親には絶対泣き言ひとつ言わなかった。反対されて結婚したから「ほら！」って言われたくなかったのよね。

——年の差をものともせず、こうしてお二人でお元氣なのは嬉しいですね。

**義一さん** 今は日光神社の宮司をやっているからなかなか忙しくて、いろいろ予定が入る。でもこうして毎日働けていることはいいことだな。

**恵子さん** わたしもお店があるから、こうして働けるのはボケ防止にもいいのかも（笑）。家族旅行はほとんど行かなかったけど、今は、この人が好きなお寿司を二人で食べに行ったり、ビールを分け合って飲んだり、楽しくやっていますよ。これからも「健康第一」を目標に過ごしていきたいですね。

曾於市では、その年に結婚 50 周年を迎えられる方を対象に  
合同金婚式とひとり金婚者の集いを行っています。



**市** 報そお8月号や8月中旬の自治会便、So Good FM放送を通じて、式典の開催日や会場などを広報し、参加者の申込みを募集しました。

今年度はご夫婦での参加が51組、おひとりでの参加が19名の総勢121名の方が参加されました。

10月27日（金）午前10時から式典が始まり、金婚者の皆さんには祝詞と記念品の贈呈が行われました。

式典のあとは、アトラクション。第一部は櫛幼児学園による「中園べぶ踊り」。これは、元来、稲の豊作を招くための予祝行事とされており、一時は途絶えていましたが、櫛幼児学園の園児たちが復活させたものです。この日は金婚式にちなんで「ごじゅんけ（結婚式）」の演目。子どもたちの鹿児島弁と演技に、会場は笑いで溢れていました。

アトラクションの第二部は、深川真理さんによるトークショー。巧みな鹿児島弁でイベントを盛り上げる深川さんの話術に、皆さん満面の笑顔。

最後は祝弁当を受け取り、皆さん会場を後にしました。

金婚式に関するお問い合わせは…

財部支所 福祉事務所 0986-72-0744

# SOO GOODな一日をみんなですごそう 子どもフェスタ



【上段・午前の部】① テーマ考案者の橋元 奈々さん（恒吉小） ② 青少年海外派遣『シアトル』事業発表  
③ チャレンジ・ザ・日本一『富士登山』事業発表 ④ 司会進行を務めたリーダー研修生

【下段・午後の部（わくわく体験コーナー）】⑤ バルーンアートコーナー ⑥ ホバークラフト体験コーナー  
⑦ ペットボトル工作コーナー ⑧ しめ縄づくりコーナー

曾於市の子どもの祭典「第12回曾於市子どもフェスタ」が10月21日（青少年育成の日）に、末吉総合センターで開催されました。子どもフェスタは、子どもたちの健全育成の根底にある「人と人とのふれあい」を通して「人を思いやる心」「互いに協力し合う心」を育て、人間関係の強い絆の結びつきをめざして開催されています。

今年のテーマは「SOO GOODな一日をみんなですごそう子どもフェスタ」。

当日は、午前中に少年の主張大会、大隅弥五郎太鼓ジュニアの演奏、各青少年事業の体験発表が行われ、午後からは、合計16の体験ブースで「わくわく体験コーナー」が開かれました。参加した約500人の子どもたちは、それぞれ楽しい時間を過ごしていました。

子どもたちの笑顔は、曾於市の大切な宝物です。そんな笑顔が輝く素敵な一日となりました。

次のページからは  
子どもフェスタで行われた  
「少年の主張大会」の結果と  
最優秀賞作品を掲載！



# 少年の主張大会

市内の小中学校の代表10人が出場し、学校や家庭、地域での経験や将来の夢などについて堂々と発表しました。

## 少年の主張大会 各賞一覧（敬称略）

### 【小学生の部】

最優秀賞

「仲間とともに」

中村 琴美（財部南小6年）

優秀賞

「大きな感謝と一つの目標」

甲斐 日珂梨（笠木小5年）

優良賞

「仲間の力は大きい」

坂下 結唯（柳迫小6年）

「ぼくの思い」

肥田木 公晴（大隅南小5年）

「ぼくは、変わる」

平田 洸雅（岩川小5年）

「声優になりたい」

平田 乃彩（財部小6年）

「争いのない世の中を目指して」

末廣 眞理那（末吉小6年）

### 【中学生の部】

最優秀賞

「目標に向かって走り続けた三年間」

市瀬 実夢（大隅中3年）

優秀賞

「人と関わることの大切さ」

今川 拓真（財部中3年）

「天職」との出会い」

和田 眞里奈（末吉中3年）

### ◎小学生の部【最優秀賞】

「仲間とともに」

財部南小学校 六年 中村 琴美



私は一生忘れないだろう。十六人の仲間と見たあの景色を。目の前に広がるオレンジ色の朝日と白波のような雲海とのコラボレーション。寒さとつかれで凍えていた私の心と体を、温かい炎のように一瞬で温めてくれたあの景色を。

私はこの夏、曾於市主催の「チャレンジ・ザ・日本一 富士登山」の研修に参加した。去年から母にすすめられて参加したいと思っていたが、高山病や日本各地での火山噴火のニュースを聞いたたびに勇気が出なかった。しかし、今年は、「小学校生

活最後の年に今しかできない何かに挑戦したい。」という強い思いが私の背中を押してくれた。

出発が近づくにつれ、私の心の中は二つの思いがどんどんふくらんでいった。一つは不安。もう一つは期待だ。その緊張を和らげてくれたのは家族や友達の声援だった。みんなと話をするたびに心が前向きになっていった。

いよいよ山頂への出発の時。「事前研修の高千穂でさえ大変だったのに、はるかに高い富士山に登ることができるのだろうか。」という不安と、「仲間を信じ十六人みんなで絶対に登り切ってみせる。」という期待を胸に、真夜中一時、私たちは八合目を後にした。

さすがにきつかった。言葉では言い表せない。まず、おそわれたはき気。数メートル歩くと道のはしに止まり、おとししてしまう。その時、近くの仲間が必ず声をかけてくれた。気持ちがあがうつと楽になる。頭痛とはき気でつらそうな仲間もいる。私も、その子に

「深呼吸、深呼吸」と声をかける。

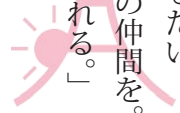
すると、彼女もほほ笑む。

いくつ目かの山小屋でガイドさんが、「ここが最後の山小屋。後にはひけません。」

とおっしゃった。その時、はき気もひどく、ここでリタイアしようかとあきらめかけた。でも、周りを見ると、五合目から頭痛を訴えていた仲間が登ると言った。私の心もやっと決まった。歩き出したのもつかの間、すぐに不安におそわれた。登っても登っても道は続いている。大きな段差やすべりそうな岩場を何度も何度もこえなければ進めない。さらに、上に行くほど酸素が薄くなり、ただただ息苦しい。さらに、前にも後ろにも長い行列で、自分のペースでは歩けない。しかし、下りたくても下りようがないと自分をはげまし、ただひたすら前へ前へ進んだ。

山頂に着いた時、私たちは自然とハイタッチ。たえあった。本当に本当にうれしかった。仲間がいたからここまで来れた。一人ならあきらめていたかもしれない苦しさも、仲間という存在で打ち勝つことができたのだ。

これからの私の未来、何度も何度もこえられないかべに出会えよう。その時は、自分に言い聞かせたい。「思い出そう。あの景色。あの仲間を。私はあきらめない。きつとやれる。」



## ◎中学生の部【最優秀賞】

「目標に向かって走り続けた三年間」

大隅中学校 三年市瀬 実夢



思い切り打った打球は、レフトへ高々と上がりキャッチされてアウト。これが私の最後の打席だった。結果は、一対十のワールド負け。まさかこんなところで負けるなんて予想もしなかった。「本当に負けたんだっけ」と受け止めきれなかった。家に帰ってから、やっと実感したせいか、涙がとまらなかった。でも、どこかほっとした気持ちだった。

中学校のソフト部の試合に、初めて出場したのは、入学前だった。周りにいるどの先輩も上手で、驚くぐ

らいに優勝をした。「ここでやっていくんだ。」と期待がふくらんだ。強いだけあって、練習量が多く、土日は一日練習だった。「頑張ろう」と思っていたが、心のどこかで、「なんでもなんにやるんだろう」という気持ちがあった。

ある時、練習中にキャプテンが地面に「九州制覇」と書いていた。それを見て、「先輩の夢をこわしちゃいけない」と思った。それから、きつくても目標があったから頑張れた。しかし、願いは届かず県三位で終わった。三年生が大粒の涙を流しているのを見ると、悔しかった。「来年は、先輩たちの分まで頑張ろう」と心の底から思った。

二年生になって、いざやるぞとなると大変だった。人数が足りずになかなか思うようにいかなかった。「やっとそろった。」と思ったときはもう四月。でもソフトができることへの感謝を改めて感じた。七月まで一生懸命やってきたけど、どうしても勝ちきれなかった。

あつという間の二年間を過ごすうちに、私は三年生になった。キャプ

テンを任せられ、十番の背番号をもらい、身が引き締まる思いだった。「今年こそは九州制覇をしてみせる」そう思った。

初めは、私は指示を出す陰で「えー。めんどくさい」と嫌な顔をされてとてもつらかった。だから私は、きらわれたくなくて

「何をする？」

とみんなに選択を頼って好かれようとした。でも、目標を改めて考えたときに「九州制覇」は仲良くソフトを楽しむだけじゃつかめないものだ。そして、私は、この時から嫌われてもいいから勝利をつかんで「ソフトをやってよかった」と、全員に思ってもらえるチームを作れるキャプテンを目指した。

試合で負けて泣いたり、自分たちよりも上手いところに勝って喜んだり、毎日がとても充実していた。時には、だらだらとした空気があったら、集合してしかることもあった。そんな日々はほんとに一瞬で、気づいたときは、もう七月だった。三年生は最後ということもあり、だんだんと焦りが出て、いらだっていることも

あった。それが後輩にも伝わり、練習にも熱が入った。

そして迎えた最後の大会。「自信をもって全力でプレーしましょう」

私が最後にかけて言葉だった。「はい」

今までで一番気持ちの入った返事をしてくれた。一人一人が全力でプレーしてくれた。しかし、昨年と同様ベスト3にも入れなかった。お互いにあいさつをした後に、喜んでいる相手を見るのはとてもつらかった。でもそれ以上に、全員が涙を流しているのを見ると、すごくうれしかった。「全力でやってくれたんだ」と思った。私のソフト生活は、先輩の目標と共に始まった。今までで一番嬉しかったこと、つらかったことも全てソフトの思い出だ。三年生でキャプテンをできたことは、ついてきてくれるみんながいたからだと思う。自分自身も成長できた。こうして、自分を熱中させてくれるものに出会えて本当によかった。目標に向かって走り続けた三年間は、一生の宝物だ。





# 仕事風景

曾於市の仕事を写真で紹介します

1



4



3



2

## 調教師

今年も11月23日に末吉の住吉神社で流鏑馬が行われた。猛スピードで走る馬にまたがり、射手が的を射る。観客と馬との差は1歩ほどで、近づく足音と駆け抜ける風を身近に感じることが出来る。スピードを落とすことなく最後はピタリと止まり、観客からは歓声が沸く。

「馬を上手に育てるには愛情しかない。馬は頭がいいから分かってくれる」と話すのは三枝俊博さん。40年に渡って、流鏑馬の馬を買い付けから調教まで行っている。馬を見る目や調教技術は九州でも有名で、この業界で三枝さんの名を知らない者はいないという。せり市会場では、三枝さんに目利きをお願いする人が後を絶たない。

「元気の源は馬。馬のいない生活は考えられない」と目を細める。「私もあと何年やれるか分からない。後継者を見つけ、流鏑馬を継承していかねければならない」と心配を漏らしつつも、現役続行の意欲が満ち溢れていた。



5



6



9



8



7

1\_ばんえい馬を4頭所有し大きいものは1ト近くになる 2\_馬場を真っ直ぐ走るように調教されている 3\_射手の着付けや装飾品の仕上げは三枝さんの仕事 4\_流鏝馬当日は実況や解説も行う 5\_馬の顔に付いた虫をひとつひとつ丁寧に取り除いていく 6\_大自然に囲まれた馬小屋でのびのびと育てられている 7\_所有する馬は串木野浜競馬大会などにも出場し多くの大会で優勝 8\_馬たちも仲がいい 9\_馬の話になると笑みがこぼれる三枝さん



三枝 俊博さん (76 歳)  
末吉町南之郷三枝

隼人族の守護神

# 弥五郎どん祭り



今年も秋の風物詩「岩川八幡神社の弥五郎どん祭り」が11月3日、岩川八幡神社を中心に盛大に開催されました。祭りのメインは、午後1時から「弥五郎どんの浜下り」。子どもたちに引かれた弥五郎どんが鳥居をくぐり登場すると、大勢の観衆から大歓声があがりました。

巨体を揺らしながら、悠々と市街地を練り歩く弥五郎どん。途中雨に濡れながらもその姿は力強く岩川の町に秋の訪れを告げていました。

## ビクトリーブーケ作り



弥五郎どん祭りの前日、岩川小学校で「花育教室」が行われました。県スプレー菊研究会が主催し、JAそお鹿児島が花材を提供。6年生の児童40人がスプレー菊などを使ったブーケ作りを体験し、色鮮やかな作品を仕上げていました。

大隅町でスプレー菊を生産している小湊健一さんは「菊には大事な人と人との繋げる役目がある。菊に触れて感謝の気持ちを養ってほしい」と話しました。ブーケ作りを体験した同小6年の牧之瀬浩驍さんは「初めての体験だったと思ったより簡単に作ることができた。家族に渡して、喜ぶ顔が見たいです」と話しました。

作品の一部は、弥五郎どん祭り武道大会のビクトリーブーケとして提供されました。

※ビクトリーブーケとは：オリンピックピックなどで、勝者にメダルとともに贈られる花束。

## 新着本のお知らせ

## 本館（末吉）

## 【一般書】

『鶏小説集』 坂木 司  
 『バカ売れ法則大全』 行列研究所

## 【児童書】

『さよなら、スパイダーマン』  
 アナベル・ピッチャー  
 『5分後に禁断のラスト』 エプリスタ

## 【絵本】

『はやくちことばでおでんもおんせん』  
 川北 亮司  
 『こねてのばして』 ヨシタケ シンスケ

## 大 隅

## 【一般書】

『情に泣く』 宇江佐 真理 他  
 『効く!食事療法大全』 主婦の友社

## 【児童書】

『クリスマスがちかづくと』 斉藤 倫  
 『はたらく』 長倉 洋海

## 【絵本】

『アントンせんせい あかちゃんです』  
 西村 敏雄  
 『おかしなおつかい』  
 ささがわ いさむ

## 財 部

## 【一般書】

『百貨の魔法』 村山 早紀  
 『超簡単「ちょい足し酵母」のパン作り』  
 吉永 麻衣子

## 【児童書】

『わかったさんのこんがりおやつ』  
 寺村 輝夫  
 『魔女バジルと闇の魔女』 茂市久美子

## 【絵本】

『さるとかに』 神沢 利子  
 『いぶくろちゃん』 平田 昌広



一般

『こぼこぼ、珈琲』  
 阿川 佐和子 他



一般

『猫ヲ捜ス夢』  
 小路 幸也



児童

『目でみる地下の図鑑』  
 こどもくらぶ



絵本

『すっぱりめがね』  
 藤村 賢志

## 12月のおはなし会 ご案内

## 本館（末吉）

## 「ちゃいはな」

絵本の読み聞かせや手あそび歌  
 毎週土曜日（2,9,16,23日）午後2時から

## 「おひざでよんで」

今月はお休みです

## 「夢劇場」 風作りとおはなし

17日（日）午後2時から

## 大隅

## 「トトロ」 風作りとおはなし

10日（日）午後2時から

## 財部

## 「祝子（はふりこ）」

昔話やわらべうたを楽しむ  
 16日（土）午前11時から

## ★ 休館日

毎週月曜日・第3水曜日

※ 12月28日～1月4日は  
 休館となります。  
 返却は各館の返却ポストを  
 ご利用ください。

12月23日から年内いっぱい  
 10冊貸出できます。

戦地に赴き、国のためにと、命を落としていった大勢の若者。一方で戦争はどこか遠くの出来事で、目の前の日常に一喜一憂しながら、いきいきと生活を送っていた人々たち。それでも終戦に近づくにつれ、誰しもが苦しみ、戦争に全てを奪われる。

戦争が始まってから終わるまでの当時の人々の生活とその変化していく姿が、奉公先の奥様に想いを寄せる若い女中タキの言葉で描かれ、私の歴史観が少し変化した作品です。



『小さいうち』  
 中島 京子

曾於高校 教諭  
 松下 華奈子 さん

とっておきの本、  
 教えます。

曾於市の出来事  
お届けします！



# まちの話題

SOO City's TOPICS

SOO City  
**NEWS**

## 宝くじ助成で音響機器などを整備



岩北校区公民館



菅牟田校区公民館

平成29年度コミュニティ助成事業により、岩北校区公民館に音響設備や石臼などの備品を、菅牟田校区公民館に音響設備や芝刈り機、物置などの備品を整備しました。

この事業は、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源として実施している助成事業です。地区公民館組織等が自主的に行うコミュニティ活動の促進を図り、地域の連帯感と自治意識を盛り上げることを目指し、一般財団法人自治総合センターが、活動に直接必要な設備の整備を支援しています。

この備品が、今後の公民館行事に積極的に活用され、地域の活性化につながることが期待されます。

SOO City  
**NEWS**

## 農業発展のために新しい力を



10月11日、市役所本庁で新規就農者支援対策事業認定書交付式が行われました。

この制度は、曾於市の農業を担う新規就農者を確保支援するため、認定後2年間にわたって毎月5万円から15万円を支援するものです。

今回は5人が認定されました。認定者には、市長から1人ずつ認定書が手渡され、激励の言葉がありました。認定者の皆さんは「自分の目標に向かって頑張ります」と力強く抱負を述べました。

SOO City  
**NEWS**

## 財部南小でも花育活動



9月21日、財部南小学校で「花育活動」が行われました。

この活動は、JAそお鹿児島花き部会会員が旧曾於郡内の学校に出向き、子どもたちへ花について学びの場を提供し、親しんでもらう活動です。

講師は、大隅町でスプレー菊を生産している小瀬健一さん。「旧曾於郡はスプレー菊の一大産地。この活動を通して菊を好きになってもらいたい」と話しました。

子どもたちには、スプレー菊のプレゼントがあり、興味津々の様子でした。



10月18日、末吉総合センターで「曾於市戦没者追悼式」が举行されました。

式では、献詠や代表者による献花がおこなわれ、参列者が戦没者の冥福を祈りました。平和メッセージでは、末吉中3年の末廣愛恵さんが、曾祖父から聞いた戦争体験をもとに戦争の悲惨さと平和の大切さ、そして今の自分に与えられた役割について朗読しました。

平和と繁栄の陰には多くの尊い犠牲があったことを後世に伝え、戦火のない平和への誓いを新たにしました。



10月11日、新地公園グラウンドゴルフ場で「第1回曾於市長杯G・G大会」が行われ、700人を超える参加者が汗を流しました。

この施設は、思いやりふるさと基金（ふるさと納税）を活用して整備。総面積2.64haの広大な敷地には、つつじコース、さくらコース、かななコースが設けてあり、10月1日にオープンしました。

【大会成績】

団体の部  
優勝 アイライクG・Gクラブ  
個人の部  
優勝 津留いつ子（下岡別府クラブ）



10月25日、そお生きいき健康センターで子育て支援センター主催の「ミニミニ運動会」が開催されました。

この運動会は今年で11回目、乳幼児を持つ子育て中の方々を対象に毎年行われています。

当日は40組を超える親子が参加。「おさかなゲット」の競技では、お母さんに引っ張ってもらった船で大きな魚を釣り上げ、子どもたちは大喜びの様子でした。かわい子子どもたちのこれからの成長が楽しみです。



10月18日、教育長室で瑞宝双光章を受賞された外前田盛雄さんの伝達式が行われました。

瑞宝双光章とは、公共的な職務に長年にわたり従事し、功績を積み重ね、成績を挙げた方に対して授与されます。

外前田さんは、昭和25年に志布志町立四浦小学校教諭として赴任して以来、月野小学校や岩川小学校で教鞭を執り、県の教育振興に多大なる貢献をされました。退職後は、出身地である末吉町で社会教育指導員として、地域の社会教育活動にご尽力されました。



10月27日、市役所本庁で新規就業者支援対策事業認定書交付式が行われました。

この制度は、曾於市内において新規就業者を確保・支援するため、認定後2年間にわたって補助金を交付するものです。

今回の認定者は7人。認定者には市長から認定書が手渡され、激励のことがありました。

認定者の皆さんは「商工業を通して、地域の発展の一助になるよう頑張ります」と力強く抱負を述べました。



10月27日、高齢者を中心とした地域貢献活動団体の表彰を受けた『そこの歴史ゼミナール』の皆さんが、市長へ報告に來られました。

同団体は、県が推進する元氣高齢者チャレンジ推進事業において、高齢社会における地域づくりに大きく貢献していると認められました。これまでの活動は、田の神さあ・石橋・水車・でこん川等の調査と展示会の開催。史跡の清掃は定期的に行っています。

会員の寺島さんは「我々が調査したものを皆さんに見ていただくのがやりがい」と話しました。



11月13日、市食生活改善推進員連絡協議会の皆さんが、県国民健康保険団体連合会から表彰を受け、市長室へ報告に來ました。

同団体は、10月27日に行われた健康づくり推進員大会において、50年の長きにわたる健康づくりボランティア活動が評価され、永年活動団体表彰を受賞しました。

会員は、様々なイベント等へ出向き、生活習慣病予防のための食生活改善指導や子どもたちを対象に食育指導などをボランティアで行っています。



10月31日、大隅町岩川出身の西段隆美さん（福岡県宗像市）が「困っている人に配ってほしい」と昨年に引き続き、宮城県産ひとめぼれ15トンを曾於市に寄付されました。

西段さんはこれまでも、ふるさと曾於市の発展に役立ててほしいと寄付をされています。

今回いただいたお米は、市が把握している生活困窮者や児童・高齢者・障害者施設等へ配布されました。今後、もち米7トも寄付される予定です。